

「遺伝資源へのアクセス手引 第2版」 の発行について

生物多様性条約(CBD)-遺伝資源へのアクセスと利益配分に関する最新情報-
名古屋議定書国内措置の検討状況と産業界の視点～考えるのは今！

2013年9月25日、JBA会議室

一般財団法人 バイオインダストリー協会
生物資源総合研究所

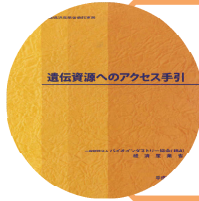
渡辺 順子



遺伝資源へのアクセス手引

第2版
2012年





第2版の特徴

- (1) 基本はボン・ガイドライン
- (2) 名古屋議定書の重要事項を追加
- (3) 7年の実施経験を踏まえて、
新たなQ&Aを追加



手引の目次

I 一般的事項

用語の説明追加、[流れ図](#) (9頁)を改定等

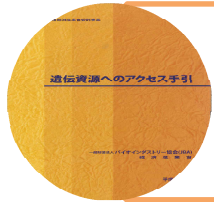
II アクセスと利益配分の手順

名古屋議定書関連条項を追加、「遵守」規定を追加、[実施上の問題点と対応](#) (Q&A)を追加。

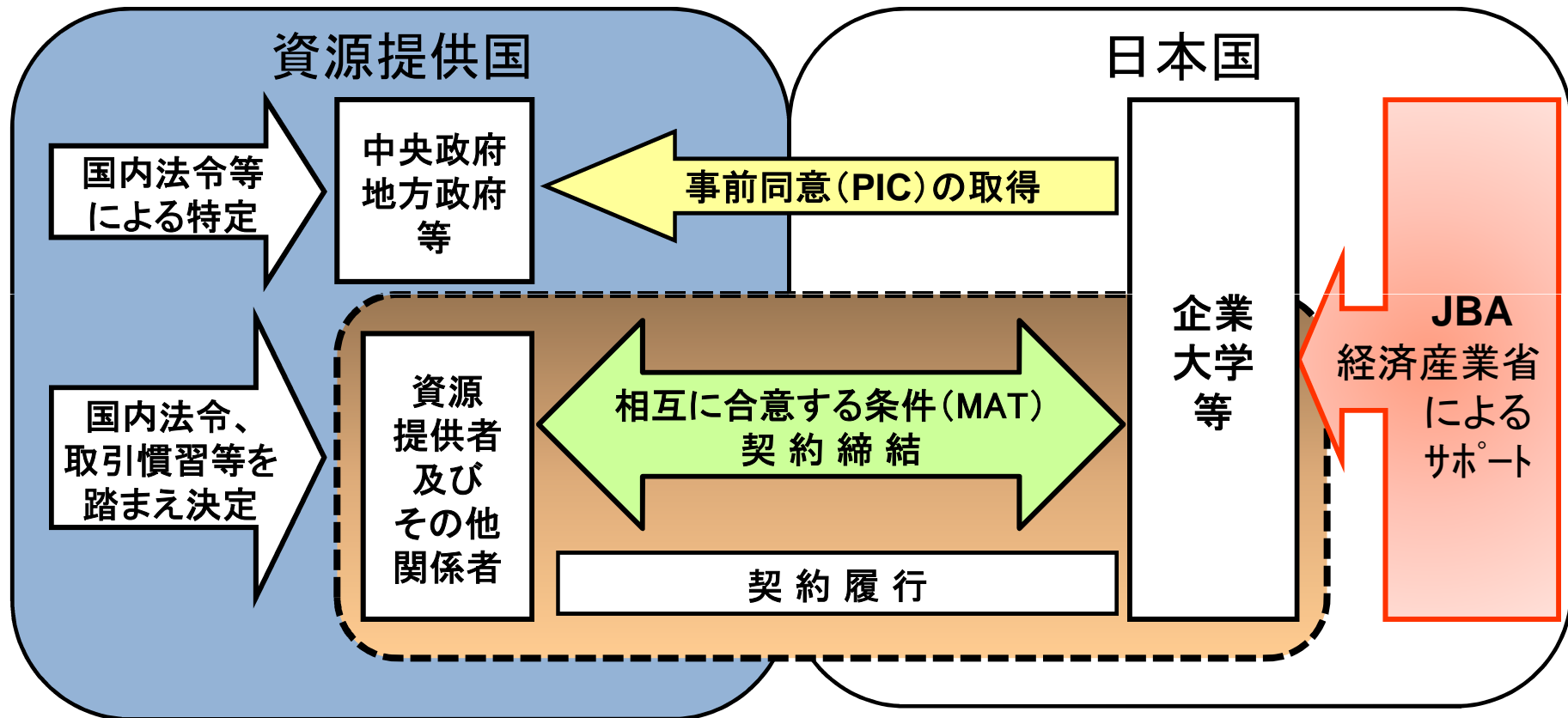
III その他の事項 ([組織内の管理システム](#))

IV JBA及び経済産業省の役割

参考..... (お役立ちサイト)



アクセスと利益配分の枠組み



(手引 9頁) CBD、ボン・ガイドラインに基づく図



手引の利用「大原則」

遺伝資源提供国の国内法や
行政措置等に従うこと！

名古屋議定書が採択された現時点においても、遺伝資源の利用者にとって、今までの手続を変更するものではない。

遺伝資源提供国にABS法令はあるか？

The screenshot shows the 'Database on ABS Measures' website. The browser window title is 'Database on ABS Measures - Internet Explorer, optimized for Bing and MSN'. The address bar shows 'http://www.cbd.int/abs/measures/default.shtml'. The page features a navigation menu on the left with items like 'Nagoya Protocol', 'About the Nagoya Protocol', 'Nagoya Protocol Text', 'Some key issues under the Nagoya Protocol', 'Decision adopting the Nagoya Protocol', 'Becoming a Party', 'List of Signatures and Ratifications', 'Progress towards ratification', 'Intergovernmental Committee', 'Bureau of the Intergovernmental Committee', 'ICNP-FP and ABS CNA', and 'Background'. The main content area is titled 'Database on ABS Measures' and includes a paragraph explaining the database's scope and a link to 'List of Countries and Regions with Measures'. Below this link are two dropdown menus for 'Country/Region' and 'Level', both currently set to '<All>'. The website also features a banner with the text 'Access and Benefit-sharing' and several images related to biodiversity and genetic resources.

遺伝資源提供国にABS法令はあるか？

- ABSに特化した法律（ABS法）を有する国は、25～30カ国程度。
（CBD批准国の20%未満）
- 国内法はABSに特化した法律とは限らない。

アクセスに関連する国内法

(ABSに特化した法律ではない)

例1: マレーシア

(但し、サバ州、サラワク州にはABS法がある)

例2: インドネシア

例1：マレーシア（サバ州、サラワク州以外）

CBDの所管：天然資源環境省

□ Regulation for the Conduct of Research in Malaysia

（首相府経済企画庁、1999年）

海外の機関がマレーシアの生物資源を利用する場合には、マレーシアのしかるべき研究機関と共同研究契約を締結し、それを経済企画庁に認可される必要がある。

（<http://www.epu.gov.my/undertaking>）

例2: インドネシア

CBDの所管: 環境省

□ Government Decree No. 41/2006

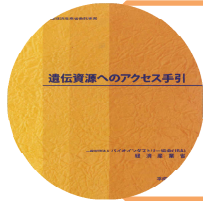
インドネシア研究技術省 (RISTEK)

外国の大学・研究機関・企業・個人がインドネシアにおいて研究する際、RISTEKから研究許可を取得しなければならない。

【申請手続き】

Research Permit Procedures for Foreign Universities, Research Institutes, Enterprises and Individual Researchers in Indonesia

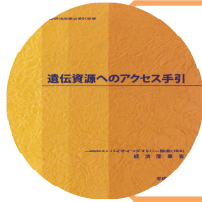
(http://202.46.15.98/?module=File&frame=lain_lain/frp/PANDUAN_frp_English.pdf)



CBDの落とし穴

その利用、大丈夫ですか？

- 提供国政府のどの部署から許可を得るのか？
- 仲介者等から移転した遺伝資源の利用は？
例えば：
仲介業者→利用者、 カルチャーコレクション→利用者
海外の大学→利用者(国内の大学)、 国内の大学→利用者(企業)
- 一般貿易品として輸入され、市場に出回っている遺伝資源の利用は？
- 海外の市場で直接購入した遺伝資源の利用は？



おわりに

名古屋議定書はまだ発効していません！

- 「**遺伝資源へのアクセス手引 第2版**」
に従って行動してください。
- 不明な点、問題点等については、JBAの
「**ABS相談窓口**」にご相談ください。
→ <https://ssl.alpha-prm.jp/jba.or.jp/abscontact.html>